

1. 報告要旨

2019 年度はまず、2018 年度から議論されていた気候変動長期目標の策定に関するパブリックコメントの呼びかけを行った。長期ゴールデンウィークのため、ちらし配布機会は限られたが、メールなどでの呼びかけを行うとともに、5 月 9 日に院内セミナーを開催した。

また参議院議員選挙の年だったため、各党へのエネルギー政策(原発、石炭火力、再エネ、被災者支援)に関する要望書を提出、意見交換を行った。普段意見交換の機会の少ない政党にもアプローチした。また各党のマニフェスト比較を実施・発表した。各党によってマニフェストの形式や内容・ボリュームにばらつきがある。さらに各党議員の活動など、マニフェストに書いていないが評価したい点もあるため、まとめるのに苦労した。

選挙後は、次回のエネルギー基本計画見直しに向けて「国民的議論のあり方」を再考するための勉強会シリーズの企画を原子力市民委員会と共同でスタートした。第 1 回目は「2012 年の討論型世論調査と国民的議論」、第 2 回目は「松江の『自分ごと化会議』の成果と課題」をテーマとした。政権交代以降、エネルギー政策における市民参加の場は、ほぼパブリックコメントのみに限定され、非民主的な状況が続いている。一方、フランスやイギリスなどで気候変動・エネルギー政策に市民の声を取り入れる試みも始まっており、市民参加の意義と方法を再考し、実現に向けて働きかけることが必要である。

年間を通じて、電力新市場(容量市場、ベースロード市場、非化石価値取引市場)に関する情報共有と勉強会を行った。かなり複雑・難解なテーマのため、運営メンバーの勉強会が中心となったが、徐々に理解が深まっている。関心の高い市民団体や生協系団体などに問題を共有するためのわかりやすいリーフレットを作成することとなり、原案を作成した(続きは 2020 年度へ)。

また前回のエネルギー基本計画見直し時に作成したリーフレット「どうする?これからの日本のエネルギー」は増刷も含めて 9 万部以上を配布、今後も活用したいという声があったため 8000 部を増刷した。

2. 成果物

1. [気候変動長期戦略パブコメ呼びかけちらし](#)
2. [参議院議員選挙にむけた各党へのエネルギー政策要望書](#)
3. [参院選マニフェストチェック](#)
4. 勉強会第 1 回「[エネルギー・環境政策における熟議のあり方とは -2012 年の国民的議論と討論型世論調査の経験と課題](#)」
5. 勉強会第 2 回「[エネルギー・環境政策における熟議のあり方とは -『自分ごと化会議 in 松江』から学ぶ経験と課題](#)」
6. リーフレット「[どうする?これからの日本のエネルギー](#)」